

総務建設経済常任委員会視察研修会（栃木県壬生町新庁舎）

日 時：令和5年5月22日（月）13：15～15：00

場 所：壬生町役場3階 委員会室2・3

視察事項：新庁舎建設について

参 加 者：

- ・二宮町議会 根岸議会議長、総務建設経済常任委員会（小笠原委員長、渡辺副委員長、羽根委員、小林委員、浜井委員、善波委員、大沼委員）、教育福祉常任委員会（一石議員、古谷議員、前田議員、野地議員）
- ・二宮町 村田町長
政策部：志賀部長、大谷施設再編課長、梅原施設再編推進班長
都市部：宮嶋部長
議会事務局：黒石議会事務局長、石原庶務課長

対応者：

- ・壬生町議会 坂田議長、遠藤副議長、鈴木議員
- ・壬生町 櫻井副町長
総務部：増山部長、杉山総務課長、栗原総務課長補佐兼管財係長
議会事務局：人見事務局長、阿部議事係長

【開会・あいさつ】

- ・坂田壬生町議会議長
- ・櫻井壬生町副町長
- ・小笠原二宮町総務建設経済常任委員長
- ・村田二宮町長

【新庁舎概要説明】

- ・敷地面積約2.2ha、本庁舎は3階建て、附属棟2階建て、耐震構造となっている。
- ・駐車場は、来庁者用114台、車いす用6台、おもいやりスペース5台、公用車用33台となっている。
- ・『壬生町の中心に、行政と町民が共創し、ひとつになる「町のリビング」をつくる』を基本方針とした。
- ・三つのエリアを、段階的に配置し、来庁者やそこで働く職員の動線を明確に区分することで、利便性の確保や業務の効率化を図った。
- ・同一敷地内に消防団本部の詰所となる防災センターや多目的広場を配置することで、災害対応の即時性、効率性を確保する。
- ・人にやさしいユニバーサルデザインとして、多機能トイレやベビーステーションの整備、

窓口でのローカウンターやプライバシーの保護に配慮したパーテーションを設置した。

また案内表示等は、分かりやすいピクトグラムを採用した。

・庁舎は、鉄筋コンクリート造の耐震構造で構造的な耐用年数は65年以上、長寿命化計画に基づく適正な管理により、さらにそれ以上の使用も可能となっている。

また、柱のないロングスパン構造や二重床等により、役場組織の再編など、将来的なニーズにも対応できるものとした。

併せて、外装でのアウトフレームや複層ガラス、トイレ等での節水型機器、LED照明の採用、空調の中央監視等、環境にやさしいスマート庁舎とした。

・議場等に関しては、傍聴席入口へのスロープの設置、段差の解消、車椅子用傍聴席や訪問設備を備えた親子傍聴席を新たに設置するとともに、耳の不自由な方が利用するヒアリングループを設置した。

また、新たに議会運営システムを導入することで、議場の内外へ映像、音声を配信し、議会としての効果的な情報の発信を可能とした。

【質疑等】

Q：庁舎建設前の町民意見聴取手法は。

A：「基本構想・基本計画策定時」と「基本設計策定時」の大きく分けて2回、説明会で聴取した。

Q：台風や集中豪雨などの災害（水害）対策は。

A：旧庁舎は一級河川の浸水想定区域内に立地していたので、水害の影響を受けない場所に移転することを検討した。また、駐車場北側に地下式浸透層の設置や庁舎屋根に降った雨を貯留槽から庁舎トイレに有効利用している。

Q：財源（補助金含む）確保策は。

A：補助金は活用していない。起債で「市町村役場機能緊急保全事業」と「緊急防災・減災事業」を活用した。また、ふるさと納税で寄付を募り充当した。

Q：議場（議会関連施設）についての考え方は。

A：傍聴席への「磁気ループ」の導入、委員会室は3部屋、内1部屋は固定単独、他の2部屋は全協や災害対応時における一体利用が可能なものとした。

Q：他の公共施設等との集約化の考え方は。

A：現在の新庁舎の近辺に福祉センターや総合体育館があるなど、今後の利便性等を含め総合的に判断して現在の位置を選定した。

Q：スマートエコ庁舎の導入について。

A：次世代への負担等を考慮し、長期的な視点から新庁舎建設に係る費用だけではなく、ライフサイクルコストを念頭に検討した。個別の機器ごとにライフサイクルコストを考慮した上で選定したが、総合的には算定していない。また、環境技術の採用にあたっては、高効率熱源、雨水利用、LED照明など費用対効果に優れたものを中心に選定し、イニシ

ャルコストに配慮しながらライフサイクルコストの軽減を図った。

Q：庁舎の移転に際してどのような議論がされたか。

A：かなり抵抗はあったが、浸水区域を避け防災拠点になるということで理解いただいた。

Q：県産木材を使用したとのことだが、壬生町の林業の実態は。

A：県北は木材産地だが、壬生は山がない。県産木材の補助金は活用しなかった。

Q：必要な面積として、どのぐらい余裕をもったか。

A：総務省の算定式をベースに何%余裕をもったかというのは無いが、旧庁舎より余裕をもった。

Q：新庁舎に係るふるさと納税について詳しい説明をいただきたい。

A：新庁舎建設について、ふるさと納税で寄付金を募った。2,100 件程度で約 5,500 万円集まった。寄付者の銘板を庁舎ロビーに飾ってある。

【庁舎見学】

- ・各フロアやバックヤード、外観等の見学を行った。

【閉会・謝辞】

- ・渡辺二宮町総務建設経済常任副委員長

【今後について】

壬生町は人口約 37,800 人だが、当初予算の一般会計が 160 億円と二宮町の予算のほぼ 2 倍の町である。町の面積も広く、平らな敷地にゆとりを持った配置になっていた。

壬生町は、旧庁舎が浸水区域となるため、丁寧な住民説明を繰り返し移転したとのことである。

窓の向きやひさしなど、省エネルギーを追求する設計、さらに、来庁・相談者のプライバシーや動線を考えた設計、集会・会議室の配置など、開かれた庁舎を実現する設計に実際に触れることができ有意義であった。また、執務スペースだけではなく、バックヤードの機能等も重要性を認識した。

省エネルギーという表現を使い、ZEB というところにこだわらない点を、開成町との比較で感じた。この点は、初期のコストとメンテナンスコストの双方を勘案して、検討する事が重要であると考えた。

関連施設は、隣接する形で設置するという配置も参考になると思われる。

開成町、壬生町と視察し、最先端の庁舎は環境に十分配慮し、人権にも十分配慮した施設建設を進めていくことが肝要と認識した。